



今月の言葉

You have to expect things of yourself before you can do them.

この言葉を日本語に訳すと、「自分に期待しなければ何も実現しない」とでもなるでしょうか。アメリカの元バスケットボール選手、マイケル・ジョーダンの言葉です。

覚えるべきことを覚えなくて問題ばかり解いていても、成績は伸びません。自信を持つためには、**覚えた量がカギ**となるのです。

勉強は、ジグソーパズルみたいなものです。ピースを埋めるように知識を詰めていけば、問題も解けるようになります。知識だけではダメですが、知識がないと知恵は生まれません。さらに、ピースの埋まり具合を把握せねばなりません。手当たり次第ではダメなのです。

最終的に自信につながるのは、**情報量と反復回数**です。どこを何回やったのかをメモし、勉強量を可視化してみてください。勉強も試験後の見直しも「これだけやった」と胸を張れるようになれば絶対に成績は上がりますし、自信も自分への期待感も高まります。

*****「蛭雪時代」9月号より、一部抜粋*****

学力推移テストの見直し

みなさん、10月29日(木)に行われた「学力推移テスト」の解答解説での見直しはすみましたか。今年になって第2回目の学力推移テストでしたが、中学1年生には新しく英語が加わりました。自己採点結果はいかがでしたか。

模擬試験や英検・漢検など各種試験を受けた後に大切なのは、「出来」「不出来」という結果以上に、必ず「見直しをすること」ができるかどうかです。

例えば、英語なら

解いた長文の見直しは必ずすること。
答え合わせ



語句暗記&精読(文のしくみを把握しながら日本語訳と照らし合わせ)



音読(文のしくみの再確認[左から右にスラスラ読めるか]
&語句チェック&リスニング対策)

どの教科にも当てはまるとは思いますが、要は、見直し後の暗記と音読が大切です。ですから、暗記の方法も知らねばなりません。暗記をするために必要なのは、時間よりも回数です。3時間机に座って覚えるより、毎日同じページを20回ずつ1週間、声を出して読むほうが絶対に効果があります。同じところを必ず毎日やり、それを覚えたら次の範囲に進む。こうしているうちに、脳に定着した量、つまり、はめこまれたピースの数が増えていくのです。

さらに、試験後は出た結果に一喜一憂しすぎずに、常に次へのステップになるよう意識しましょう。もちろん、定期試験後の見直しはいうまでもありません。
(進路模擬試験担当)

社会科の勉強法



社会科は「人」に関する教科です。ですから「人」が豊かになるにしたがって社会科の内容も豊かになり、覚えることがたくさんになっていきます。

社会科が苦手な人、覚えることが多いので苦労している人へのアドバイスは、時代、国、人名などで区切って小さな箱を作り、その中を一つずつ埋めていくことです。幸いなことに社会の勉強は努力が短時間で結果に表れ、誰でも努力に比例して伸びていく教科です。落ち着いて階段を一段ずつ上って行ってください。

基本的な勉強法を紹介します。

1. 教科書をしっかり読みましょう。

このとき、重要語句の確認は勿論ですが、地図やグラフ、写真や年表、歴史的な資料、本文以外の注釈までしっかり目を通します。

2. 社会科重要語句の理解に努めましょう。

基本的な問題から論述式の問題にまで対応できるように、その語句の意味に加えて、全体との関連も考えて理解しましょう。

3. 知識の確認のため、問題演習に取り組みましょう。

自分自身のレベルに合った問題演習を選択する事が賢明です。基礎・標準・応用問題と難易度を上げ、目標実現に向けて取り組みましょう。

4. 解答解説を隅々まで、熟読しましょう。

たとえ正解であったとしても、その答えを選ぶプロセス(過程)が異なるのであれば、正解を導くまでの様々なアプローチがあることを知ることが大切です。

5. 模擬試験を活用しましょう。

高校生は特に活用しましょう。一度解いた模擬試験問題を何度も解き直し完璧に理解しましょう。

6. 新聞・書籍を活用しましょう。

世の中で起こっている出来事に対して、新聞やニュース、書籍など情報を選択し、広い視野で物事を捉え多面的な実力をつけましょう。

7. 文章力・表現力をつけましょう。

高得点を目指すためには、きちんと論述問題にも対応する必要があります。実は論述問題に必要な国語力である「明確で筋の通った文章」を書くことはそう難しくはありません。論述ができない理由の多くは、知識が曖昧なことです。それでも日頃から文章を書くトレーニングをしていないと、いざ試験になってもできません。また自分なりに表現を練習した内容は、単なる暗記よりも深く、そして楽に定着します。日頃の勉強から論述にチャレンジしましょう。

以上のことから大切なことは、どの教科の勉強方法にも言えることだと思いますが、「学問に王道はない」ということです。地道に覚えるべきことを覚え、理解するように徹底して努めることでしか結果はついてきません。自分に足りない部分を真摯に受け止め伸びようとする時、本当の意味での実力がつき、人として成長するのだと思います。

5月号の「英語の勉強法」に始まり、今月号の「社会科勉強法」まで、5教科の先生方の協力を得て掲載を続けてきました。これまでの、そしてこれからの勉強法のアドバイスとなっていることを期待しています。

(進路通信担当より)

